

令和3年度 事業活動報告

一昨年から引き続き新型コロナウイルスに翻弄された一年となりました。やっちく会におきましても事業所での感染が確認され、感染対策の在り方や感染後の対応、いわゆる BCP について考えさせられた一年となりました。そういった状況の中でスタッフも感染の恐怖に苛まれながらも利用者様の「豊かなくらし」を守る務めを果たすために、エッセンシャルワーカーとしての誇りと責任をもって常に高い緊張感の中で試行錯誤を繰り返してまいりました。

また、介護保険制度においては、「感染症や災害への対応力の強化」「地域包括ケアシステムの推進」に加え、「自立支援・重度化防止への取り組みの推進」「介護人材の確保・介護現場の革新」や「制度の安定性・持続可能性の確保」、「ケアの質の向上に向けた科学的介護情報システム（LIFE）」利活用など、法人・施設における安定した経営体制の確立や強化、ケアの質の向上がより強く求められてきています。

このような状況の中、入所系事業所全般においては、利用者の高齢化及び重度化により入院等が多く発生することとなりました。人待機者への働きかけについては、コロナ禍の中で十分に行うことが出来ませんでした。居宅介護支援事業所等の関連機関とも連携し、可能な限り空床状態を作らないよう働きかけた結果、昨年度を上回る稼働率を達成することが出来ました。

短期入所生活介護事業については近隣の事業所にて新型コロナウイルス感染が確認され、ウイルス感染の蔓延等を考慮し、受け入れの一時停止など利用者確保及び受け入れ態勢の方策が整わず稼働率が減少となりました。

通所介護事業・居宅介護支援事業は、新型コロナウイルス感染の余波を受けながらも日々のサービス内容を工夫し、昨年度を上回る稼働率を達成することが出来ました。

児童福祉事業におきましても、少子化に伴い利用率が昨年度よりも減少傾向となっております。今後の取り組みとしては SNS 等をフルに活用してみどり保育園の魅力を発信するなど、様々な手法を取り入れながら、また、既存のウェブページをさらに魅力的なものにし、送迎バスの活用もフルに行い、園児の確保に努めていきたいと考えております。

志布志市から受託後7年が経過し、社会福祉法人の役割と責務について再度自覚し、より地域に根差した保育事業が展開できるようにさらに推し進めてまいります。

利用者の確保のみならず職員の確保についても、やっちく会の安定的な運営を考えるうえでも避けることの出来ない喫緊の課題と考えます。

職員確保への取り組みについては、法人 PR、ウェブページの活用を図り、さらに SNS 等の活用まで踏み込んだ、より積極的な方策の展開が必要と考えます。外国人雇用についてもすでに受け皿としての準備はスタートしております。今後も前向きに検討していく必要があると考えます。

制度の変化や法が改正されても私たち社会福祉法人松山やっちく会が、この地域になくてはならない存在であり続けるために、これまで以上に公益な取り組みの実施、地域に根差した地道な取り組みや活動が必要になってくると思われます。

今後も各事業所で、やっちく会の一員としての自覚を強く持ち、多様化するニーズに柔軟に対応し、情報の共有を図りながら利用者視線に立ったサービスが行えるよう研鑽を重ねていく必要があります。

新型コロナウイルス問題に関しましても収束まではまだ道半ばと思われ、With コロナ(新しい生活様式)へと世の中は移り変わろうとしておりますし、まだまだ感染拡大には十分な警戒が必要です。このような状況ではありますが、今後も利用者様に生きがいを持って生活していただけるよう支援していくことがやっちく会に与えられた使命と考え、地域福祉推進の中核団体であることを強く自覚し、職員一丸となって事業運営に邁進していきたいと考えます。